

世界子ども救援キャンペーン 「終わらぬ恐怖 ナイジェリア報告」



国際児童年(1979年)に毎日新聞社との共催でスタートした「世界子ども救援キャンペーン」は、大阪本社社会部・岡村崇記者と写真部・山崎一輝記者を2019年9月13日から10月8日の期間、西アフリカの大国・ナイジェリアに派遣し、イスラム過激派の武装勢力「ボコ・ハラム」による襲撃や拉致から逃れて暮らす国内避難民のキャンプ地をはじめ、拘束され戦闘員の「性奴隷」となってしまった少女や、支配下から解放された後も仕事に就けない「元少年兵」たちの自立を支援する団体などを取材しました。

本キャンペーンの紙面展開は、「終わらぬ恐怖 ナイジェリア報告」のタイトルで11月4日付朝刊から7回にわたる連載に加え、16日と23日付朝刊では1ページ・カラー特集を掲載し、子どもたちの現状や貧困にあえぐ様子を克明に報じると共に、「世界子ども救援金」を呼びかけました。

報道写真展を開催

今回の取材をもとに、報道写真展「終わらぬ恐怖 ナイジェリア報告」(カラー写真33枚展示)を20年2月13日から19日まで、大阪市の堂島アバンザ1階エントランスホール(協賛・堂島アバンザ管理株式会社、協力・ジュンク堂書店)で開催しました=写真。



ボコ・ハラムに拉致されて、性奴隷として扱われたザラウ・カラウさん(18)。両親も襲撃により殺害されました。勇気を振り絞り、当時の記憶を少しずつ語ってくれました=ナイジェリア・ボルノ州マイドゥグリで、山崎一輝撮影

「国境なき医師団」の小児集中治療室で、点滴治療を受ける国内避難民のプカル・モハメッドちゃん(3)。母のビントゥさん(30)は前日入院したモハメッドちゃんの傍らを片時も離れず世話をしていました=ナイジェリア・ボルノ州マイドゥグリで、山崎一輝撮影

世界子ども救援金12団体に贈呈

世界子ども救援金から「取材地助成」「公募助成」「継続助成」の3つの助成を行い、総額380万円を贈呈しました。

●「取材地助成」4団体へ200万円を贈呈

1. UNDP (国連開発計画)
2. OCHA (国連人道問題調整事務所)
3. 日本ユニセフ協会
4. 国境なき医師団日本

●「公募助成」4団体へ80万円を贈呈

1. 地雷廃絶日本キャンペーン
2. CODE海外災害援助市民センター
3. ユナイテッド・アース

4. ラリガラス

●「継続助成」4団体へ100万円を贈呈

1. JIM-NET (日本イラク医療支援ネットワーク)
2. 高遠菜穂子(ピース・セル・プロジェクト)
3. 日本国際ボランティアセンター(JVC)
4. 国連UNHCR協会

台風19号被害救援金

2019年10月12日から13日にかけて、東日本各地を襲った台風19号により、土砂崩れや河川の氾濫などの甚大な被害が生じ、10月16日付朝刊から「台風19号被害救援金」の募集を開始しました。

12月12日に第1次贈呈分として福島県へ700万円、宮城県500万円、栃木県300万円、神奈川県300万円、長野県200万円の合計2,000万円を寄託したのをはじめ、20年3月18日にも第2次分として福島県へ130万円、宮城県へ70万円の合計200万円を寄託。贈呈総額は2,200万円となりました(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では7,231万円)。



浸水した車両基地に並ぶ北陸新幹線の車両＝長野市赤沼で19年10月13日、本社ヘリから

台風15号被害救援金

2019年9月9日に関東地方に上陸した台風15号により、千葉県を中心に家屋の損壊や土砂崩れ、電柱の倒壊などの被害が生じ、9月20日付朝刊から「台風15号被害救援金」の募集を開始しました。

12月12日に第1次贈呈分として千葉県に317万1,448円、20年3月27日にも第2次分20万5,611円を同県に寄託しました。贈呈総額は337万7,059円となりました(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では1,305万1,448円)。

東日本大震災救援金

2020年3月11日に第18次贈呈分として、50万円を日本赤十字社に寄託しました。今回で贈呈総額は4億7,027万2,718円となりました(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では11億4,190万256円)。

毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」(毎日新聞大阪・



東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は、9年目を迎えました。

19年3月8日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載すると共に、被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の募集枠に対して55人が応募。5月10日に選考委員会が開かれ、全会一致で55人に支給が決定。奨学生数は継続者とあわせて199人(高校生83人、短大・大学・大学院生96人、専修学校生20人)となり、下記のとおり支給しました。

■19年度

4月25日、199人(4、5、6月分:6月25日支給の新規分含む)1,194万円

7月25日、199人(7、8、9月分)1,194万円

10月25日、199人(10、11、12月分)1,194万円

20年1月24日、199人(1、2、3月分)1,194万円

小計4,776万円を支給

■18年度

・202人(最終数)4,860万円を支給

■17年度

・194人(最終数)4,656万円を支給

■16年度

・192人(最終数)4,626万円を支給

■15年度

・215人(最終数)5,184万円を支給

■14年度

・214人(最終数)5,154万円を支給

■13年度

・240人(最終数)5,766万円を支給

■12年度

・188人(最終数)4,554万円を支給

■11年度

・156人、3,744万円を支給

11年4月からの合計支給額は

4億3,320万円

三重県尾鷲市の社会福祉法人に配食サービス車贈呈

高齢者や障害のある方のお宅へ食事を届けるサービスを行う民間団体や福祉施設などに、配食サービス車「毎日ふれあい号」を贈る事業は、2019年12月11日、尾鷲市社会福祉協議会の輪内高齢者サービスセンターに贈呈しました。

読者からの寄付金をもとに、デベロ社(本社・水戸市)が特殊改造した軽ワゴン車で、今回33台目になります。

同センターは、食事を作ることが困難な65歳以上の高齢者35人を対象に週3回、年間約4,500食の食事を提供しています。

贈呈式では、直江篤会長に記念の

キーが手渡されました＝写真左から2人目＝。直江会長は「高齢化が進み、交通の利便性が悪い地域で車は必需品。見守り活動にも力を入れたい」と話していました。



歳末たすけあい運動

「歳末たすけあい運動」を2019年11月9日から12月20日まで実施しました。同運動に連動している「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」は、12月14日から16日まで、毎日新聞ビル地下1階のオーバルホールで開催し＝写真＝、1,482万円の売り上げがありました。歳末義援金の915万円を加えると、総額で2,397万円となりました。

なお、同チャリティーにおいて入札もれなどのため、お蔵入りしていた絵画、工芸、色紙、書などの秘蔵作品を5年ぶりに展示即売した「チャリティー特別即売会」を7月6日に開催し、291万円の売り上げがありました。

両チャリティーの売上金と歳末義援金から、児童福祉施設や更生保護施設などの7団体に歳末慰問金を贈呈したほか、公募助成金や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童らのキャンプ事業などをはじめとする、今後1年間に実施する多彩な社会福祉事業の資金として有効に役立てます。皆様のご協力に深く感謝いたします。



🌻 毎日社会福祉顕彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する第49回毎日社会福祉顕彰(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)は、推薦された35件の中から次の1個人と2団体が選ばれました。

2019年10月25日、東京都千代田区のパレスサイドビルで贈呈式が開かれ、賞牌と賞金(各100万円)が贈られました。

◇失明後、故郷の埼玉県で初となる養護盲老人ホームを開設した茂木幹央さん(83)(社会福祉法人「日本失明者協会」理事長、埼玉県深谷市)＝写真左

◇50年前から保育園に障害児を受け入れ、健常児と共に過ごす「統合教育」を進めてきた社会福祉法人「水仙福祉会」(松村寛理事長、大阪市)＝同中央

◇障害の有無にかかわらず、共に生きる社会の実現を目指す「シャローム」(大竹静子代表、福島市)＝同右



🌻 施設を巣立つ81人に祝い金贈呈

大阪府内の児童福祉施設から独立立ちする生徒を対象にした「施設児童就職予定者研修会」(大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、府社会福祉協議会児童施設部会、本団主催)が2020年2月16日、大阪市のシェラトン都ホテル大阪で開かれました。

19年7月から、ビジネスマナーや毎日放送アナウンサーによる話し方セミナーのほか、金融・法律の必要な知識などを学ぶ「自立生活技術講習会」を13回にわたり実施。最終回となる同日は今までの講習会を振り返る発表会をはじめ、施設出身の先輩の体験談や同ホテルの講師からテーブルマナーの指導を受けました。

閉講式では、本団から1人1万円の「就職祝い金」を就職予定者81人に贈呈しました。また、協力団体や企業も祝い品を贈り、生徒たちを激励しました。

🌻 公募助成金205万円を贈呈

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や、先駆的事業を展開する団体などから一般公募で申請を受け付け、2020年1月30日に有識者による選考委員会を開き、次の14団体に総額205万円を贈呈しました。

〈公募福祉助成金〉

8団体に75万円

1. 禁煙推進の会兵庫さんだ(兵庫県三田市)
2. サンフェイス(大阪市)
3. すまみらい(神戸市)
4. 奈良県手話通訳士協会(奈良市)
5. HAG(Hospice Art therapy & Griefcare)(兵庫県西宮市)
6. ミュージック・アトリエ「エコー」(神戸市)
7. ラブラブたんぽぽパフォーマンスライブ実行委員会(富山県立山町)
8. 和歌山県網膜色素変性症協会(和歌山市)

〈シンシア基金助成〉

2団体に50万円を贈呈

1. 日本介助犬協会(愛知県長久手市)
2. 兵庫介助犬協会(兵庫県西宮市)

〈世界子ども救援金助成〉

4団体に80万円を贈呈

* 詳細は1面下段をご参照ください

🌻 小児がん征圧募金11団体に贈呈



毎日新聞の「生きる 小児がん征圧募金」に寄せられた「小児がん征圧募金」は、患者とその家族を支援する団体や医療研究機関などに配分しています。2020年3月12日、下記11団体に各70万円、総額770万円が贈られました。

▽あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋市)▽ぷくぷくばるーん(同)▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」(京都市)▽京都ファミリーハウス(同)▽近畿小児血液・がん研究会(大阪府吹田市)▽しづたね(同大東市)▽守口ぶどうのいえ(同守口市)▽日本クリニクラウン協会(大阪市)▽こどものホスピスプロジェクトTSURUMIこどもホスピス(同)▽Japan Hair Donation & Charity(同)▽チャイルド・ケモ・ハウス(神戸市)。

🌻 全国盲学校弁論大会

第88回全国盲学校弁論大会全国大会(全国盲学校長会、毎日新聞社点字毎日、毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催)が2019年10月4日、東京都文京区の都立文京盲学校で開かれました。

全国7地区の予選を勝ち抜いた代表9人が出場し、「シロウサギ」と題して発表した福島県立視覚支援学校高等部保健療科1年の常松桜さん(19)＝写真中央＝が優勝し、文部科学大臣優勝旗や点字毎日杯、毎日新聞大阪社会事業団杯などが贈られました。



🌻 遺児を励ます「そよかぜ杯ボウリング大会」開催

2019年6月16日、近畿地方在住の交通災害遺児とその家族ら110人を招き第28回そよかぜ杯ボウリング大会(大阪交通遺児を励ます会、本団主催)が大阪市の桜橋ボウルで開かれました。

子どもも大人も真剣な表情でピンを目掛けてボールを次々と投げ、2ゲームを競いました。幼児も補助具を使ってボールを転がしました＝写真。29年にわたり、遺児への募金活動を続ける大阪府ホンダ会の役員も加わり、ストライクの音が鳴り響くたびに歓声が上がりました。

終了後は、近くのハートンホテル西梅田に場所を移し、昼食会と成績発表が行われました。参加者はなごやかに交流を楽しみ、来年の再会を誓いました。



■新春こども大会

2020年1月19日、第51回新春こども大会(大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催)が大阪市の市立こども文化センターで開かれ、大阪府内10カ所の児童福祉施設で暮らす子どもたち約300人が参加しました。

子どもたちは、仲間と共に、日ごろから練習してきた劇や歌、ダンスなどを披露＝写真。朝日放送のアナウンサーが司会進行を務め、会場を盛り上げる中で、元気いっぱい演技、客席から惜しみない拍手が送られました。

また、会場ロビーには、子どもたちの描いた絵画約230点が展示され、優秀作品の表彰も行われました。



■点訳・音訳のボランティアを養成

第32回専門点訳・音訳講習会(日本ライトハウス情報文化センター、本団主催)は、視覚障害者が使用する外国語や理数、楽譜、東洋医学などの専門書を点訳、音訳するボランティアを育てようと「点字毎日」創刊65周年記念事業として

1987年に始まりました。

「点訳のてびき 第4版解説コース」をはじめ、音訳の「古典コース」「図表コース」「小説の読み方コース」の4つの講習会を開催＝写真。これまでの修了者は2,159人にのぼり、各地の点訳・音訳グループや点字図書館で活躍しています。



■駅伝・ロードレース大会

2020年2月8日、第34回駅伝・ロードレース大会(大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催)が大阪府吹田市の弘済小中学校グラウンドと周辺で開かれました。

大阪府が管轄する府内20カ所の児童福祉施設で暮らす子どもたち約270人が参加し、午前中は小中学生の男女別ロードレース、午後は施設対抗の駅伝と綱引きが行われました。仲間の熱い声援を背に、子どもたちは懸命にゴールを目指しました。

運営には施設職員のほか、京セラドキュメントソリューションズの社員もボランティアで協力しました。恒例の豚汁が振る舞われ、冷えた体を温めてくれました。

■囲碁セットを贈呈

第52回歳末たすけあいチャリティーチャレンジ碁力認定戦(日本棋院、スポーツニッポン新聞社主催、本団後援)の収益金で製作した、囲碁セットなどを島根県内3カ所の児童養護施設に贈りました。

2020年3月2日、和田堅吾常務理事らが、松江市の「双樹学院」を訪れ、碁盤と碁石、囲碁を題材にした人気漫画「ヒカルの碁」全12巻、「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」に寄贈された絵画1点を小林生子副院長＝写真右＝に手渡しました。

小林副院長は「出雲地方は昔から囲碁や将棋が盛ん。1人強い子がいるとみんな夢中になる。大事に使わせてもらい、勉強させてもらいます」と話していました。



■ご寄付の方法

■郵便振替でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票(振替用紙)に金額、〒、住所、お名前、連絡先などの必要事項をご記入のうえ、お振り込みください。送料(手数料)無料の払込取扱票(振替用紙)を必要な方は本団までご請求ください。

- 郵便振替口座番号 00970-9-12891
- 加入者名(送り先)
毎日新聞大阪社会事業団

■現金書留でのご送金

〒530-8251(*住所不要)
毎日新聞大阪社会事業団

- *「社会福祉に」「毎日希望奨学金に」「世界子ども救援金に」など、寄付項目を通信欄に必ずお書きください。
- *金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきます。匿名や掲載不要を希望される方は、通信欄に「匿名」、「掲載不要」などをお書きください。

■ご持参

直接、本団事務所へ。
大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビル16階(JR大阪駅から西へ徒歩8分)

平日のみ10時～18時まで
*多数の硬貨がある場合は、最小限の紙幣と硬貨に両替のうえ、お越しくくださいますようご協力をお願い申し上げます

■お問い合わせ先

毎日新聞大阪社会事業団
電話 06-6346-1180
Fax 06-6346-8681
E-MAIL:mainichi-osj@sirius.ocn.ne.jp
ホームページ https://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyoo/

毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。

■編集後記 53

- ◆「優しくね、優しいことは強いだよ」。宮城まりこさんが生前よく口にされていた言葉だそうです。
- ◆1955年「ガード下の靴みがき」が大ヒットし、歌手・女優として活躍される一方、脳性まひの子の役を演じたことから障害児教育への関心を高め、私財を投じて日本初の肢体不自由児童養護施設「ねむの木学園」を設立されました。
- ◆絵描きになりたかったと言うだけに、美術館などを併設して独自の障害児教育に取り組むと共に、絵画展やコンサートを開き、障害者への理解を訴えてこられました。
- ◆最晩年に「今の社会に言いたいことは？」と問われ、「いろんな国の人のこと、優しく思ったら、もう少し穏やかになるんじゃない」。一貫した優しさで周囲を包み込み、93歳の天寿を全うされました。(和)